

被災地の少年サッカーチームの一助に、参加したみなさん—撮影・ASA糸田



**フットサル 東日本大震災チャリティー大会**

◇東日本大震災チャリティーフットサル大会（19日・福智町金田屋内ドーム）

①田川市役所A②社会人サッカー混成  
田川実行委員会が主催、市

役所、医師会、薬剤師会のそれぞれサッカー部が後援。集まった義援金8万6千円は、岩手県の少年サッカーチームの用具代などに充てられる。  
=ASA糸田

いつか一緒にサッカーを



寄贈するユニホームを手に激励する岡橋直之さん（右）と森田也寸志さん

福岡の愛好家

「いつか一緒にサッカーしようぜ」—東日本大震災で壊滅した岩手県大槌町の少年サッカーチームに、福岡県のサッカー愛好家たちがユニホームやボールなどを贈る。「OHTSUCHI&FUKUOKA-aways connect」（大槌と福岡—いつもつながっている）。ユニホームの胸のエンブレムには、友情の証としてそんな文字を刻んだ。

岩手の子へ希望のパス

ユニホームと用具贈る

支援活動の中心になったのは、福岡市城南区のオリジナルウェア製作会社社長、岡橋直之さん（37）、同市のフットサルチームの主将で会員の森田也寸志さん（32）、福岡県糸田町の薬局経営者、田中洋介さん（39）の3人。チャリティーTシャツの販売やフットサル大会を緊急開催し、サッカー愛好家約120人から支援金が集まった。

大槌町の人口は約1万5200人。町内の大半の建物、家屋が大津波で流されて多数の死者、

